

Monthly Report

令和5年度入学式を挙行了しました



新入生代表の宣誓を務めた加藤一郎さん（体育学科）

4月4日（火）、本学第五体育館を会場に第57回体育学部並びに第26回大学院入学式を挙行し、体育学部659名（うち、体育学科333名、健康福祉学科104名、スポーツ栄養学科84名、スポーツ情報マスメディア学科38名、現代武道学科63名、子ども運動教育学科36名、編入生1名）及び大学院14名が入学しました。

今年度はこれまでの3年間、新型コロナウイルス感染防止の観点から出席をご遠慮いただいていた保護者やご来賓にもご参列いただき挙行することができました。式では、体育学科の加藤一郎さん（宮城・名取北高校卒）が新入生代表宣誓を務めました。

〈学長式辞要旨・高橋 仁〉

本日入学した皆さんには、授業や部活動をはじめ大学生活の中で「知・徳・体」を磨き、人間力を高め、それぞれの目標を達成し、社会に貢献できる人として成長するよう願っています。

この三月に開催されたプロ野球のワールドベースボールクラシックで、日本代表チームが世界一となり、日本中に感動と勇気を与えてくれました。その日本代表チームのメンバーとして本学の卒業生である宇田川優希投手がいることは、本学の誇りであります。その後輩となる皆さんも、スポーツに限らず一人一人が目指す分野において、将来、世界を舞台に活躍することを期待するとともに、本学においてその土台づくりができるよう、教職員で力をあわせて皆さんを支援してまいります。

日本の社会は世界の動きと密接に繋がっており、国内のことだけを考えると物事が動かないという時代になっています。このような時代を生き抜くためには、在学中に海外に出て自国のことを振り返り、経験知を高めることも大切です。海外への渡航制限が緩和されたことを受けて、本学では今年2月から海外研修派遣を再開し、研修を希望する学生が韓国や台湾、タイ、ベトナム、ニュージーランド、米国の大学での交流プログラムに参加しています。今年度は、プログラムの数をさらに増やして実施する予定です。スポーツの交流だけでなく、健康福祉、スポーツトレーナー、防災やボランティア活動など、幅広い分野での研修プログラムを用意しておりますので、これからの募集案内にも注目してほしいと思います。

このような海外研修プログラムを一例として、本学では皆さんの学生生活が充実したものとなるよう、授業やゼミ活動を中心に、サークル活動、部活動支援などのボランティア活動、学校や企業でのインターンシップなど、多様な学びの機会を提供しておりますので、積極的に活用してください。

失敗を恐れず、さらに一歩踏み出す勇気を持って、本日入学した皆さんがさまざまな分野に挑戦していくことを大に期待します。

〈目次〉

・令和5年度入学式を挙行了しました	1
・本学学生が東京体育学会 第14回大会にてポスター発表 ・今季3人目Jリーガーが誕生<13年連続> ・福島県立田村高等学校との連携協定を締結	2
・台東大学特殊教育学科一行来訪	3
・スポーツマネジメントコース春季研修会の報告	4
・「高校スポーツの安全を守る」	5
・令和5年度新任者紹介	6 ～ 9
・仙台大学教職員の共通理解事項	10

本学学生が東京体育学会 第14回大会にてポスター発表

3月26日、国士舘大学世田谷キャンパスで開催された東京体育学会・第14回学会大会において、スポーツ情報サポート研究会所属の学生1名、林研究室所属の学生3名がポスター発表を行いました。ポスター発表は、2分間の口頭による概要説明を行った後、50分間の自由討論形式で行われました。他大学の先生方や、大学院生の方からご指導いただき、良い経験となったようです。

本学のスポーツ情報サポート研究会と桐蔭横浜大学のスポーツアナリティクスチームの間で、昨年8月から継続的に行なっているスポーツ分析交流会の活動をきっかけに、今回のポスター発表を行いました。

林研究室では、3年時に共同研究での学会発表、4年時で作成した卒業論文の学会発表を必須としていくスポーツ情報マスメディア学科>



口頭説明を行う 松橋樹

<13年連続>今季3人目Jリーガー！相馬丞がモンテディオ山形「2023 JFA・Jリーグ特別指定選手」に登録

先日、モンテディオ山形（J2）への来季加入が発表された男子サッカー部の相馬丞（体育4年）が、この度、「2023 JFA・Jリーグ特別指定選手」に登録されましたのでお知らせします。



【相馬 丞（ソウマ ジョウ）プロフィール】

■ポジション： DF

■生年月日：2001年6月15日（21歳）

■身長/体重：185cm/81kg

■出身：山形県山辺町

■チーム歴：

SFCジェラール→モンテディオ山形ジュニアユース村山

→モンテディオ山形ユース→仙台大学

※JFA・Jリーグ特別指定選手とは…

■目的

サッカー選手として最も成長する年代に、種別や連盟の垣根を超え、「個人の能力に応じた環境」を提供することを目的とする。

福島県立田村高等学校との連携協定を締結

福島県立田村高等学校内で行われた締結式には、本学から高橋仁学長、松本文弘副学長、江尻雅彦教授等が出席しました。この連携協定を通じて、今後は学習支援や入学者選考方法の円滑な推進、教員の養成、地域社会の発展に向けた取り組みが行われる予定です。

具体的な取り組みとしては、大学からの講師派遣等を行い、スポーツの競技力向上や専門的知識の習得をサポートすることを目指しています。

今後については、福島県立田村高等学校との連携により、地域のスポーツ振興や教育水準の向上に寄与し、さらには地域社会の発展新たな可能性を広げることを期待しています。



台東大学特殊教育学科一行来訪

4月6日（木）から4月8日（土）にかけ、台東大学特殊教育学科の教員2名、大学院生8名が本学を訪問しました。今回の訪問では、大学内のアスレティックトレーニングルーム、剣道場、柔道場及び体操場などの施設見学、剣道の授業を体験したほか、船岡支援学校、荒浜小学校などの施設見学、本学の学生との交流などを行いました。

船岡支援学校の見学では、施設や授業などについて説明を受け、「大変勉強になりました」との感想が寄せられました。また台東大学より、現代武道学科の学生及び本学在籍留学生など約35名を対象に、洪学務長による「台湾剣道の歴史及び発展現状」、程准教授による「台湾における千百楽の発展に関する研究」及び大学院生5名による「台湾の特殊教育に関する研究」の講演も行われました。

訪問の最終日には、日本文化体験として、「日本三景松島」を訪問しました。松島の見学では、瑞巖寺を訪問し、日本の歴史と文化を深く感じられていたようです。その後、荒浜小学校を見学しましたが、「津波の威力や脅威を実感するとともに、日本人は東日本大震災を乗り越えた」と賞賛の声が上がりました。

お忙しい中、協力をしてくださった先生方、ありがとうございました。

<国際交流課>



スポーツマネジメントコース春季研修会の報告

例年、体育学科スポーツマネジメントコースでは新2年生に対して、コース所属初めての全体行事として蔵王自然の家にて春季研修会を1泊2日で行っています。3年前はコロナ禍により実施できませんでしたが、一昨年、昨年と感染対策を行いながら実施し、今年度、やっとほぼ従来通りの内容で実施する事ができました。他コース、他学科では実施している例が少ない春季研修会ですが、大きく3つの目的があります。

- ①新2年生の横の繋がり と 上級生・コース所属教員との縦の繋がり を強める
- ②スポーツマネジメントについて学びを深め、コースでの学びについて理解する
- ③コース必修授業のスポーツマネジメント実習Ⅰに向けて、自然の家の使い方等を理解する

この3つを達成するために教員や上級生の補助学生が事前にミーティングを重ねて、「どのような活動が新2年生にとって良いか？」を考えながらプログラミングします。参加した新2年生からのフィードバックとしては「他人と協力する場面が多く、コミュニケーションを十分にとることができた」「1年生の時はオンラインが中心で中々馴染む事ができず、大学生活に不安を感じていたが、春季研修会を通して自然と様々な人と交流する事ができ、今後に繋がる良い機会となった。」「スポーツマネジメントとは何かを学び、コースで自分が何をこれから学んでいくのかが整理でき、未来について深く考える事ができた」（※一部抜粋、編集）などが挙げられ、十分に目的が達成されている事が窺えました。さらに実際の運営についても教員中心ではなく、補助学生が中心となりマネジメントをするため、補助学生にとっても実際のマネジメントを体験する機会となりました。

以上のように大変実りのある春季研修会になりました。運営に携わっていただきました教員の皆様、補助学生の方々に感謝を申し上げます。また、他コース、他学科でもこのような取り組みをしてみてもいかがでしょうか？学生への教育や大学生活のサポートの参考にいただければ幸いです。

＜報告者 スポーツマネジメントコース主任 井上 望＞



「高校スポーツの安全を守る」 Vol. 60 仙台大学川平アスレティックトレーニングルームの新たな取り組み

PI 山田 莉久

・ATプロフェッショナルインターン（PI）事業開始

令和5年度より、川平ATルームでATプロフェッショナルインターン（PI）事業がはじまりました。PI制度とはアスレティックトレーニング（AT）及びストレングス&コンディショニング（S&C）の分野でJSP0-AT及びCSCSを有するあるいは取得見込みの本学卒業生が実務経験を得て、スポーツ現場の即戦力になり得る人材の育成を目的としています。S&C分野では昨年より開始をしており、AT分野は今年度から始動しました。川平ATルームでは明成高校の部活動で起こるけがに対しての応急処置やアスレティックリハビリテーションを養成スーパーバイザーのもとで経験を積みます。

・インターン生の紹介（仙台大学体育学部体育学科2023年卒 山田莉久）

名前：山田 莉久（やまだ りく）

出身地/出身高校：福島県南会津町/福島県立南会津高等学校



令和5年度 新任者紹介

教員5名 事務職員1名 新助手7名 プロフェッショナルインターン1名 臨時職員9名 計23名の皆さんが着任いたしました。

教員

こいし としあき 小石 俊聡 (子ども運動教育学科) 	大学教育という世界に初めて入り、新鮮な気持ちでいっぱいです。学生たちが充実した4年間を過ごせるよう、微力ではありますが頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。	やまぐち やすまさ 山口 恭正 (スポーツ情報マスメディア学科) 	昨年度博士の学位を取得し、実証科学に基づく研究を推進するとともに、スポーツ科学に知見や研究スキルを活かしていきたいと思います。よろしくお願いいたします。
えんどう のりあき 遠藤 教昭 (スポーツ情報マスメディア学科) 	本学全体に係わる情報科目、保健、保育、健康福祉などの科目を担当し、これらの科目の融合を目指し、学生や教員の皆様と力を合わせていきたいと考えております。よろしくお願いいたします。		
さいとう ながゆき 齋藤 長行 (スポーツ情報マスメディア学科) 	メディアの社会との調和、特に情報倫理に関する研究をしています。OECDでのポリシーアナリストとしての国際経験を活かして、本学に貢献したいと思っています。		
せいの まさや 清野 正哉 (現代武道学科) 	公務員(国)、大学、自治体(各種審査会)、企業(アドバイザー)での実務、教育、研究等の経験をもとに、学生の皆さんのお手伝いをしていきます。どうぞよろしくお願いいたします。		

職員・新助手・プロフェッショナルインターン・臨時職員

なかざと しんいち 中里 晋一 職員 (企画部IR課) 	社会経験を活かして仙台大学の運営に貢献できるよう努めていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。	こじま あやか 小島 彩花 新助手 (付属高校実施支援) 	今年度より新助手としてお世話になります。主に仙台大学付属明成高等学校での勤務になります。仙台大学と明成高等学校に貢献できるよう努めて参ります。よろしくお願ひいたします。
あいざわ まさき 相澤 正輝 新助手 (男子バスケットボール部指導) 	今年度から新助手として主に男子バスケットボール部の指導にあたります。自分ができる最大限の力を発揮し、本学の発展のために貢献していきたいです。	さくらい ひでやす 櫻井 秀保 新助手 (付属高校実施支援) 	今年度より仙台大学の新助手として、仙台大学附属明成高校で勤務させて頂くことになりました。仙台大学と明成高校の発展に貢献できるよう努めていきます。宜しくお願ひ致します。
かが ちさき 加賀 千咲 新助手 (スポーツ栄養) 	今年度よりスポーツ栄養学科の新助手として勤務させて頂きたくことになりました。本学で学んだことを活かし、業務に励みたいと思ひます。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ致します。	みやかわ ゆきな 宮川 優希菜 新助手 (スポーツ栄養) 	今年度よりスポーツ栄養学科の新助手として勤務させて頂きたくします。業務をしっかりとこなし多くのことを吸収したいと思ひております。仙台大学の発展に貢献できるよう精進して参ります。よろしくお願ひいたします。
くまさか なぎさ 熊坂 凧彩 新助手 (スポーツ栄養) 	在学中は、栄養士免許のほか、保健体育教諭と栄養教諭の免許を取得しました。学生生活での経験を活かしながら、前向きに業務に邁進して参ります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。	わたべ りょうた 渡部 亮太 新助手 (硬式野球部指導・教育企画課) 	主に硬式野球部の指導にあたりますが、野球の技術だけではなく社会に貢献できる人材の育成に尽力したいと思ひます。学生さんのためにも、自分の強みを持って送り出せるように力の限り、支援してまいります。

やまだ りく 山田 莉久 PI (川平ATルーム) 	ATプロフェッショナルイン ターンという今年度から始 まった事業となりますが、機 会をいただけたことに対して 良い結果と来年度以降のPI事 業の発展、この事業を通して 朴沢学園全体への貢献ができ るように努めて参ります。	くどう ゆうが 工藤 悠雅 臨時職員 (学生支援課) 	仙台大学での学びや経験 を活かして、学生の学校生 活や学びを全力でサポート していきます。また、仙台 大学での勤務を通じてスキ ルアップにも努めていきま す。
あべ りょうま 安部 綾馬 臨時職員 (男女バレーボール部指導 入試・就職部支援) 	今年大学を卒業して、 大学院に入学し、臨時職 員としても働くことにな りました。4年間お世話に なった仙台大学に恩返し が出来るように頑張りたい です。よろしくお願いし ます。	さとう れん 佐藤 蓮 臨時職員 (男女ハンドボール部指導・ゼビオ受付) 	今年度より、臨時職員と して勤務させていただくこ とになりました。男女ハン ドボール部の指導をさせ ていただきます。ハンドボ ール部の競技力向上だけ でなく、仙台大学の発展に 尽力いたします。よろしく お願いします。
いとう けいすけ 伊藤 圭佑 臨時職員 (硬式野球部指導・総務部支援) 	今年度から臨時職員と して働かせていただくこ とになりました伊藤圭佑 と申します。主に硬式野 球部の指導及び総務課の 勤務に当たります。大学 に少しでも貢献できるよ う、精一杯努力します。 よろしくお願いします。	しらと ことみ 白土 采美 臨時職員 (学生支援課) 	今年度から学生支援課 で臨時職員として勤務さ せていただくことになり ました。学生のサポート と自分の目標に向かい 日々努力していきたいと 思います。よろしくお願 いします。
きくち りょうが 菊地 亮雅 臨時職員 (研究実践機構事務課) 	この度臨時職員として スポーツ健康科学実践機 構事務課に配属されまし た菊地です。一日でも早 く仕事に慣れるよう頑張 りたいと思います。よろ しくお願いいたします。	なかざわ しょうま 中澤 翔馬 臨時職員 (学生支援課) 	今年度から学生支援課 で働かせていただきま す。学生がよりよく学生 生活を送れるようサポー トしていきたいと思いま す。至らない点も多々あ ると思いますがよろしく お願いいたします。

なかすじ だいすけ 中筋 大介 臨時職員 (硬式野球部指導・施設管理課) 	野球部指導がメインですが学校業務も精一杯やらせて頂きます。史上最強の野球部作りを目指して毎日全力でやっていこうと思います。
ほしの たつや 星野 竜弥 臨時職員 (学生支援課) 	学生支援課の臨時職員として、学生の悩みや問題解決に向けて全力でサポートしたいと思います。また、自分自身のスキルアップや専門種目であるサッカーの知識の向上にも取り組んでいきたいと思います。

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。
Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。
本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802 Email kouhou@sendai-u.ac.jp

～仙台大学教職員の共通理解事項～

仙台大学の「建学の精神」、「基本理念」、「使命・目的」

建学の精神

「実学と創意工夫」

仙台大学の経営母体である学校法人朴沢学園(明治12年開設)の学園創始者は、建学の精神として「実学と創意工夫」を掲げ、「創意工夫と先見性をもって実学を志し、実学に根ざした人格形成と人材育成を図る」ことをもって先進的な女子教育を行い、寺子屋方式に代え一斉教授法を導入し明治時代の裁縫教育に一大革新をもたらした。

その考え方は、体育系単科大学として昭和42年に開学した本学にも受け継がれ、人格形成の要素である体育・徳育・知育のうち「体育」に教育・研究の重点を置きつつ、実学と創意工夫に根差した広い教育研究領域を探究することに継承されてきた。

なお、建学の精神の意図するところについては、開学時の第1回入学式・初代学長告辞にも「社会で充分活動できるため

基本理念

「スポーツ・フォア・オール」

仙台大学は、昭和42年、単一学部・単一学科で開学した。その後、平成7年度以降、順次学科を増設し、現在では6学科構成としている。また、学科増設に加え平成10年度には大学院スポーツ科学研究科(修士課程)も新設している。こうした教育研究領域の拡大に伴い建学の精神を基盤に据えつつ、大学の新たな基本理念として定めたのが「スポーツ・フォア・オール」である。

「スポーツ・フォア・オール」とは文字通り「スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に」を、すなわち「乳幼児から元気なお年寄りはもちろん、寝たきりのお年寄りまで。そして、性別や障がいの有無を問わず、トップアスリート、生活の中での楽しみや健康の励みとしてスポーツをする人、スポーツをみるのが好きな人、スポーツをささえる人などすべての人を対象としてスポーツを科学的に探究すること」を意味している。

使命・目的

基本理念を踏まえた仙台大学の使命・目的は、仙台大学学則第2条および仙台大学大学院学則第2条にそれぞれ示している。

■仙台大学学則 第2条

本学は、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する諸科学を教授研究し、当該分野における指導者としての専門的知識と技能を体得させるとともに、高い識見と広い視野をもって、社会の指導的な役割を果し得る有能な人材を育成することを目的とする。

■仙台大学大学院学則 第2条

本大学院は、広い視野に立って、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する学術の理論と応用を教授研究し、当該分野における高度の専門的な職業等を担うための卓越した能力を培い、もって体育・スポーツ及び健康分野の発展に寄与する有為な人材を育成することにより、広く社会に貢献することを教育研究上の目的とする。

その他 (リンクを貼っていますので、項目をクリックして閲覧ください)

■人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的(仙台大学学則別表第一)

■3つのポリシー ①学部 ②大学院

③体育学科 ④健康福祉学科 ⑤スポーツ栄養学科

⑥スポーツ情報マスメディア学科 ⑦現代武道学科 ⑧子ども運動教育学科

■朴沢学園中期経営計画

■事業計画